
墮天使の美しい恩恵

HIRO.T

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

堕天使の美しい恩恵

【Nコード】

N5263E

【作者名】

HIRO・T

【あらすじ】

少年が連れてこられた屋敷には、沢山の花が咲き乱れる庭があった。

一面の花。

競うように咲き誇る花々が視界一杯に広がっている。

屋敷の主からここを任されている初老の庭師に少年は連れられてきた瞬間、その美しさに絶句しそして感嘆の声をあげた。

すごい、という言葉しか思い付かない。

目を見張り駆け寄っては花の香を楽しむ少年の様は、蝶のようだった。

「ねえ、これ一人で世話してるの？」

「はい」

「すごいな」

「まだ向こうの方にも咲いております。どうぞご覧になって下さい」
「うん。そうする！」

少年はパタパタと足音を響かせて駆けていった。

そこに見つけた大輪の花に感激して、声をあげている。

その様子を眺めて庭師の男は眼を細めて笑みを浮かべた。

「ねえ、あっちの温室は？」

「バラや蘭が咲いております」

「見てもいい？」

「どうぞ」

許可を得ると少年はすぐに温室の中へと消えた。

庭師の男は色の悪い葉や虫の食った葉を取りながら少年と同じ道を辿る。

「ねえ！ 早く！ この花の名前、教えて！」

温室から頭だけ出して呼びかけてくる少年に笑みを見せて足を速めた。

尋ねられるまま花の名を答える。

反芻しては花の香りを嗅ぐ少年。

名前の通り甘い香りだ、あんまり香りがしないや、と感想を言つては小路を飛び跳ねるように歩く。

その動きが不意に止まった。

深紅と言つに相応しい赤。

そしてベルベットのような質感の花片。

艶めかしくゾクリとする存在感のある大輪のバラの前で、少年は足を止めた。

「……これは？」

「世に出していない新種のバラです」

「新種……すごい……怖いくらい……綺麗。作ったのはあなた？」

「はい。協力者は何人もおりますが」

「すごいなあ」

そつと近づき香りを吸い込む。

その不思議な甘さは思考を痺れさせるようだった。

「名前はついているの？」

「いいえ」

「そうなんだ……」

「この屋敷にずっとお出でになるのですしたら協力者の一人になって頂けませんか？」

「僕が？ いいの？」

「はい。ぜひお願い致します。手始めに名前の候補を」

言いながらにこやかに微笑する庭師の男を見上げながら、少年は花をじつと見つめて名前を考え始めた。

「何がいいかな？ なんとかローズが無難かな？ でもインパクト足りないよな」

「じっくり考えて下さつてよろしいのですよ？」

うん、と返事をして振り返つた瞬間、少年の世界は闇に包まれた。

「さて」

庭師の男は大輪の深紅のバラの根元に肥料を埋める作業を終えて一息ついた。

「このバラの名前は『堕天使の美しい恩恵』が相応しいと思うのですが、いかがかな？」

そう言ってトン、とスコップでバラの根元を叩いた。

(後書き)

UW様(http://pokopkopen.ikaduchi.com/)のお題『堕天したあなたへ5のお題』の三つ目です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5263e/>

堕天使の美しい恩恵

2010年10月12日06時22分発行